

## (1) 会合の概要

- 日程・場所 : 2021年11月3日(水)～12日(金) オンライン会議 (GoTo Webinarを使用)
- 検討事項 : ワイヤレス電力伝送 (WPT)、テラヘルツデバイスに関する勧告/報告書等について審議。
- 参加者 : 米、英、蘭、露、中、韓等から約320名が参加。日本から総務省、民間企業等約30名が参加。

## (2) 主な結果

### (1) ワイヤレス電力伝送 (WPT) に関する検討

- Beam (空間伝送型) WPT周波数 (日本が制度化予定の周波数含む) のガイダンスに関するITU-R新勧告草案 (SM.[WPT.BEAM.FRQ]) について、前回会合で、日本におけるWPTの規定上の扱いの記載について、米国から別の記載が提案されたことを踏まえ、日本提案の寄書を入力。米国と調整し、合意した内容が適切に反映された。次回WP1A会合で本草案を勧告案に格上げしてSG1に上程し、次回SG1会合での合意を目指す。
- Beam WPTの影響調査に関するITU-R報告 (SM.[WPT.BEAM.IMPACTS]) について、前回会合における英国からの干渉等に関する懸念に対し、日本の制度では免許局として管理された条件で利用することを説明した寄書を入力し、適切に草案に反映。米国から寄書入力があった61GHz帯の影響調査、国際電波天文から寄書入力があった電波天文業務との両立性が草案に反映された。次回WP1A会合にて本草案を再度議論し、次回SG1会合での「新報告案」の承認を目指す。

### (2) テラヘルツ帯の能動業務に関する検討

- ITU-R報告SM.2352 (275-3000GHzにおける能動業務の技術動向) について、ウォークスルーキャニングシステム (※1) の仕様検討に資するために、衣類や金属、危険物の透過・反射特性に関する論文をSM.2352に使用することに見解を求めるリエゾン文書を前回会合で日本から提案しWP3J、3K及び3M宛に発出したところ、テラヘルツ帯における衣類の伝搬特性に関する見解として、衣類は周波数、材質、厚み等によって透過特性が変化すること、周波数の増加により透過率は低下すること、反射率が衣類よりも高い材質であれば金属や危険物が識別可能であることをWP1Aに提案する回答があった。
- これを踏まえ、日本からWP3J、3K及び3Mの見解を盛り込んだ作業文書の修正提案を行うとともに、作業文書から改訂草案への格上げ提案を行った。会合では、SM.2352関連を審議するドラフティンググループ (DG) が設置され、日本提案と、本報告に技術説明を追加する中国からの提案の統合に向けた調整を実施することとなった。その結果、日本からの作業文書の修正提案は反映され、中国からの修正提案は修正の上で一部反映されて、作業文書から改定草案に格上げされた。

※1 衣服の下に隠れた金属・非金属の危険物を短時間で検知するシステム。日本からの提案により、当該システムの仕様をSM.2352に追加する検討が令和元年5月のWP1A会合からなされている。

## (3) 今後のスケジュール

ジュネーブでの物理的な開催とオンライン会議を複合したハイブリッド方式の開催となる予定。

- 2022年6月28日～7月7日: WP1A・1B・1C、7月8日: SG1 (予定)
- 2022年12月5日～12月9日: WP1A・1B・1C (予定)